The Lepidopterological Society of Japan

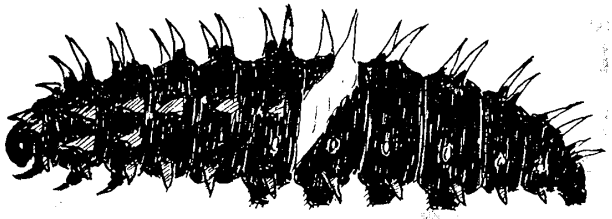
他山の石 (30)

磐瀬太郎[1)]

Lessons from Here and There (30)

By Taro Iwase

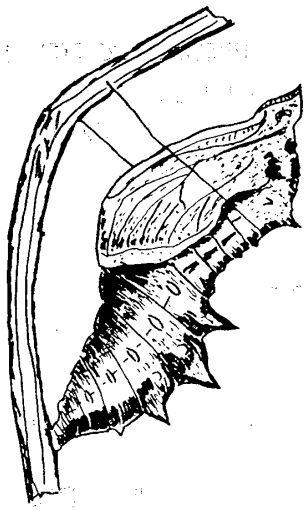
(30) トリバネアゲハ *Ornithoptera* の生活史 : 東洋熱帯の豪華チョウ，トリバネアゲハは，ジャコウアゲハ，キシタアゲハの親類で，幼虫，蛹もよく似て居り，食草もウマノスズクサである。ウマノスズクサは，その花の形から Dutchman's Pipe，また Pipe-vine と呼ばれている。ジャングルの木にまつわりつき，トリバネの♀は高いところばかり飛んで産卵するといわれているが，必ずしもそうとは限らない。



O. priamus euphorion の幼虫（実物大）

卵 : 大型ではあるが滑かな球形で，ジャコウアゲハの様に上ぬりはない。ゴクラクトリバネの卵は淡黄色1個ずつ若い葉に産みつけられる。

幼虫 : Barrett & Burns (1951) は *O. priamus* メガネアゲハの亜種 *poseidon* の幼虫は，チョコレート色，肉質の棘 spine の列を有す，と書いている。しかしこの棘は F. E. Zeuner (1943) が，spine ではなく tubercle であると指摘している通り，決してトゲトゲしたものではないこと，ジャコウ幼虫と同じである。新村太朗氏 (1943) は，同じ幼虫を，褐紫色，第4腹節に淡黄色の大形の1紋があり，各節背面にある1対の突起は紅色を呈し先端のみ黒紫色である。最も大きく成長すると 9 cm にも達すると記している。アレキサンドラトリバネの幼虫はビロード黒色，鞍状帯はクリーム色，突起はルビー赤色。ゴクラクトリバネの幼虫もビロード黒色，突起は赤と黒が混り，第4，5節のものは全部黒色。1888年 C. Salvin が紹介した Woodford のノートによれば，ビクトリアトリバネの幼虫は暗褐色，突起はカーミン赤色，その数は頭部に大小2本ずつ，以下 8 本 2 節，6 本 3 節，4 本 6 節，2 本 1 節となっているが，頭部の大小2本ずつはあやしい。吉田真日出氏 (1962) の紹介したアカエリトリバネ終令幼虫では，突起は長く細く，胸部各節8本，腹部各節6本である。



O. priamus euphorion の蛹

蛹 : ポセイドンの蛹は黄褐色に暗色の不規則紋条があり，長さは 6.5cm。食草から離れたところに多く，食草上に残るものは殆んど寄生されている。ゴクラクトリバネの蛹は地上に近い食草附近の他の植物にあること多く，色は暗褐色で背面のみ黄色，蛹期は5—6週間。アカエリトリバネの蛹は青リンゴ色，翅の部分にスミレ色の縁どりと小紋があり，腹部を動かしてシユッシユッと音をたてる。蛹期 24—26日位。

E. B. Ford (1944) はトリバネアゲハの1つの特長として，蛹のつり糸は1本の輪でなく，左右別々に小突起に

1) 東京都文京区湯島2丁目 30—10

NII-Electronic Library Service

The Lepidopterological Society of Japan

つくとし，分類や系統論に利用しているが，つり糸作りの動作や手順から考えても無理な話で，これは BOISDUVAL (1832) 以来の誤りを引用した千慮の一失である。(19/vi. 1965)

(図はメガネアゲハ *euphorion* の亜種で，バアレット等の原図から変写したが，幼虫は他の資料で大きく修正してある)。

コウトウマダラ沖縄に産す

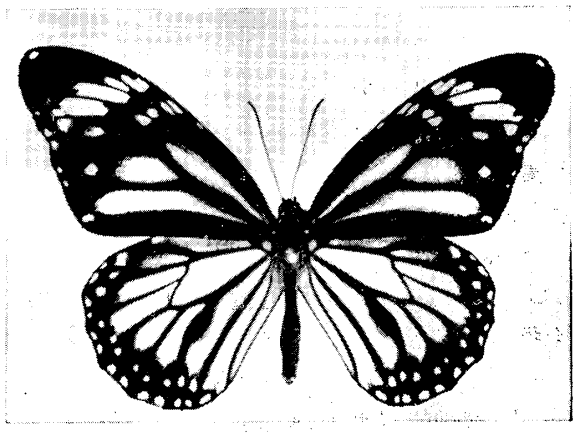
村山修一[1)]

Discovery of *Danaus lotis* CRAMER in Okinawa Islands. By SHU-ITI MURAYAMA

1966年4月，溝口修氏が沖縄を訪れられた際，現地の方の採集品をもらいうけられた中に，思いがけなくコウトウマダラ（スヂグロシロマダラ）が入っていたので，同氏の御依頼により，未記録種としてここに写真をかかげ紹介することとした。

1♂，1966年4月2日，石垣島にて採集，前翅38mm

紅頭嶼と石垣島のファウナの類似はすでにしられているところであるから，このたびの発見は全く意外とはいえない。



石垣島産のコウトウマダラ（前翅長38mm）

なお台湾本島からは1957年私が初めて記録したが，その際これをフィリッピン北部産の亜種 *edmondi* BOUG. に同定しておいた。そののち白水氏は松村博士が1929年，紅頭嶼から記載したコウトウマダラ *lotis kotoshonis* に他ならぬとされ，台湾産の *lotis* には亜種 *kotoshonis* を用いられた。この松村博士のタイプの図をみると，♀とはいい条，白紋の発達著しく，前翅翅頂に近く2列の白紋をあらわし，外縁の白紋列も顕著であり，後翅外縁の2つの白紋列も甚だ大きい。このような個体はまだ他の地方の亜種では見たことがない。台湾本島からしられた *lotis* にもこのような個体は見つかっていないようであるから，私は*kotoshonis* の名は紅頭嶼の亜種名として残しておき，台湾本島や今回の石垣島のものは一応 *edmondi* に宛てておくのが妥当なように思う。

ツマジロウラジャノメがササに産卵

久保快哉[2)]

ツマジロウラジャノメは従来の知見では，イネ科のヌカボ，ヒメノガリヤス，ヤマカモジグサ，アオカモジグサなどが野外での食草として知られるが，野外でササの1種に産卵するところを観察したので報告する。

筆者は1967年6月4日，長野県松本市扉温泉付近の路傍で採集中，これを目撃した。食草のササは石垣の石の間に生えていたもので未同定であるが，この付近には普通のものである。

飼育の際に与えればササを食うと言うが，野外で観察したのでここに記した。

---

1) 大阪府茨木市新庄町 3—6　　2) 東京都渋谷区松濤 2—10—15

NII-Electronic Library Service